

富山医科薬科大学
医学部同窓会報

2002. 第11号



富山医科薬科大学

医学部同窓会報

2002. 第11号



C O N T E N T S

4. 富山医科薬科大学における統合・再編問題
5. 本学における再編統合の現状 学長 高久 晃
6. 医学部長に就任して 医学部長 倉知 正佳
7. 独法化と再編・統合の渦の中にある医薬大病院
附属病院長 小林 正
9. 変わるもの変わらぬもの
または、昆布メ・桐朋・同窓生 会長 高田 良久
11. 医薬大の地域医療における役割の検討
済生会高岡病院内科 蓑 毅峰
第一生理 田淵 英一
15. 特集 “卒業生の今現在、そして将来” Part 6.
瀬川 恵 (看護学科 平成13年卒)
北原 桂 (医学科 平成12年卒)
田所 浩 (医学科 平成12年卒)
谷野亮一郎 (医学科 平成12年卒)
道具 伸浩 (医学科 平成11年卒)
吉岡 幸恵 (看護学科 平成11年卒)
瀬川奈津美 (看護学科 平成11年卒)
21. 大学内教室紹介
解剖学第二教室 澤田石 勝 (医学科 昭和57年卒)
第二病理学教室 川口 誠 (医学科 昭和59年卒)
第三内科学教室 安村 敏 (医学科 昭和62年卒)
外科学第二講座 南村 哲司 (医学科 昭和62年卒)
成人看護学二急性期教室 古谷由香里 (看護学科 平成13年卒)
橋場 有紀 (看護学科 平成13年卒)
八塚 美樹 (看護学科 平成12年卒)
29. 定年退官寄稿
赤い目をしたさぎ 公衆衛生学講座 加須屋 實
最近の寄生虫事情 感染予防医学助教授 上村 清
-

「月の庭」

ロウケツ染

染色工芸家。太平洋美術会賞受賞。各地工芸画廊をはじめ、最近では、1992年日本橋高島屋(東京)で個展を、また、94年とちぎ女流作家100人展に参加、99年銀座松屋にて個展を開く。いずれも好評を博す。栃木[蔵の街]音楽祭協力委員として地域文化活動にも貢献。縁あって本同窓会誌の表紙絵を97年より依頼している。栃木県岩舟町在住。

33. <特別寄稿> 極地に赴く(2) 南極大陸観測旅行
筑波大学附属病院呼吸器外科 酒井 光昭 (医学科 平成7年卒)
38. 寄稿 群馬大学医学部附属病院総合診療部
坂本 浩之助 (医学科 昭和61年卒)
40. 訃報
谷井靖之先生追悼文
魚津緑ヶ丘病院副院長 葛野 洋一 (医学科 昭和60年卒)
谷井靖之先生のご逝去を悼む
精神神経医学 角田 雅彦 (医学科 昭和61年卒)
谷井先生を偲んで
精神神経医学 村田 昌彦 (医学科 平成3年卒)
43. 平成13年度富山医科薬科大学関連病院長懇談会議事要旨
48. 第53回西日本医科学生総合体育大会部門別成績
49. 富山医科薬科大学医学部人事消息
50. 平成13年度 第20回医学部同窓会総会議事録
52. 平成12年度会計報告・平成13年度収支予算案
平成13年度行事報告・平成14年度行事予定
54. 会長挨拶 会長 高田 良久
55. 総会のインターネットライブについて
耳鼻咽喉科 安田 恵子 (医学科 平成11年卒)
コンピューターアドバイザー 武田 精一
56. ライブ中継に対する会員からのメッセージ
更埴中央病院内科 宮林 千春 (医学科 昭和57年卒)
シカゴ大学医学部 山村 淳一 (医学科 平成7年卒)
58. 職掌分担・評議員一覧
60. 編集後記

富山医科薬科大学における統合・再編問題

今年度は、国立大学にとって大きな変革の年でもありました。新聞やテレビ等でも話題となっていますが、1～2年後の特殊独立法人化を目前にして、わが母校の富山医科薬科大学も外部だけではなく内部の大きな構造改革に取り組んでいます。その意味で、今年度は高久晃大学長、倉知正佳医学部長、小林正病院長にご挨拶を承りそれぞれの立場でのお考えを述べていただきました。基本的には、本学をさらに発展するために独創性のある大学作りを行っていくことになるでしょう。

はじめに

この問題については現在引き続き本大学内で討議されていますが、近いうちに結論を出す時期が来るでしょう。しかし、大学改革を行っていくうちに、いくつかの根本的問題も表面化しています。

今まで医学部では、教育・研究・医療の3者を同時に行ってきていますが、これらを真剣に遂行するためにはどれ一つをとっても一生かかる仕事です。それなのに現実には、一人の人間が3つを並行して行っている場合が多いのが現状です。大学附属病院でも、管轄は文部科学省が、運営は厚生労働省が行っているという運営面での矛盾だけでなく、同様に教育・研究・医療の問題が混乱しています。これらを顧みると、医学部は他の学部と比べて全く異質な学部といえ、本来ならばむしろ教職員数を増員すべきですが、残念なことに経済や少子化等の理由により、国立大学の数および教職員数が減るのは余儀のない状況です。

これらの問題を解決する方法はないのでしょうか？ これまで様々な討議がなされてきていますが学内全体で賛成できる決定的な名案は出ていません。もしあるとすれば、他大学の医(薬)学部と合併することではないでしょうか。そうすれば、教官数も倍増し、教育・研究・医療それぞれが圧倒的に拡充できます。各学問での細分化が進む中、それぞれの分野での最先端の研究や医療がかなり行いやすくなるでしょう。また教育においても、教官の負担が減るだけでなく最先端のより正確な知識を学生に教えることができることでしょう。その他、大学院化やトップ30の問題も簡単に解決できます。

理想的な統合がここにある気がします。実際に、この案に賛成している教授も少なくないようです。ただ、現実化できるかどうか最大の難所といえるでしょう。医学部の統合を成しえた大学は、少なくとも私の知る限り世界中に一つもありませんが、これが成功すれば、確実に世界のトップクラスの大学になることは間違いないでしょう。

※大学改革の最新情報については、大学に所属している方は大学ホームページの学内専用サイトや諸種の案内により知ることができます(教官以外の方は最寄の教官に聞いてみてください)。大学外の方は、最新情報とまではいきませんが本同窓会報をご覧になればその基本を把握できると思います。さらに詳しく知りたい方は、本同窓会メールにてご連絡ください。(編集者)



本学における再編統合の現状

学 長 高 久 晃

富山医科薬科大学医学部同窓会の皆さん、2002年の新年を迎えられ、益々ご健勝の事と拝察いたします。

富山医科薬科大学も御多聞にもれず、他の国立大学同様大学改革の渦中にあり、中でも再編統合が緊急の課題となっております。

本年6月に開催された国立大学学長会議において、国立大学構造改革の方針が遠山文部科学大臣により提示され、全国の国立大学には激震が走っております。その内容は各種報道により知っておられる先生も多いと思いますが、

1. 国立大学の再編統合を大胆に進める。
2. 国立大学の経営に民間的発想を導入する。
3. 第三者評価による競争原理を導入し、世界のレベルのトップ30の大学を育てる。

という内容であります。中でも、大学の再編統合については1～2年は待てない。ぐずぐずしていたら設置者の文部科学省主導で統合再編を進めるという厳しい内容でありました。人口110万人に過ぎない富山県内には本学、富山大学、高岡短期大学という3つの国立の高等教育機関があり、統合再編は不可避かつ焦眉の急の問題として学内外において検討が続けられており、文部科学省も大きな期待を寄せています。

富山大学から薬学部と和漢薬研究所が分離され、それに新設の医学部が設立されて本学が誕生しました。その後26年が経過し、全国でも特徴ある医療人育成の教育研究機関として大いなる発展を続けて参りました。この様な状況の中で再編統合を単なる受身として把えるのではなく、大学改革の大きな転機と受け止めております。すなわち、大学院の充実等の絶好の機会であり、大学院の研究専攻科を単位に企画されているトップ30の受け皿を整備発展させたいと考えております。

再編統合と同時に国立大学は法人化されます。法人化という環境の中では、当然のことながら厳しい競争的環境が待っています。この様な観点から現在、本学は再編統合の相手となる富山大学及び高岡短期大学に対し、再編統合に関わる基本的確認事項を提示し、実質的な協議を開始しております。すなわち、①新しい大学の基本理念 ②教育研究において重視される必要事項 ③基本理念を実現するための管理運営の基本事項であります。③においては各大学の教員の構成の適正化、任期制の採用、適切な評価に基づく給与体系及び人的物的資源の配分等が盛られております。本学がリーダーシップをとり、この様な方向で再編統合を進めたいと思っております。

医学部同窓会の皆様も大いなる関心をお持ちの事と存じますが、機会を設け情報の共有に努力していきます。御意見などございましたら積極的に当方にお寄せくださるようお願い致します。



医学部長に就任して

医学部長 倉 知 正 佳

昨年11月1日より、はからずも医学部長を併任することになりました。大学のあるべき姿に向かって、その役割を果たしていくように努力していきたいと思っております。大学のあるべき姿、その具体的な事柄につきましては、皆様さまざまなご意見がおりと思いますので、できるだけ十分な議論を積み重ねて物事を進めてまいりたいと思っております。医学部同窓会皆様方の建設的なご意見・ご協力をお願い申し上げます。

現在、富山医科薬科大学が直面している大きな問題の一つとして、大学の再編・統合があります。遠山文部科学大臣は、「大学の構造改革なくして、日本の発展、再生はない」とまでいっており、国立大学の再編・統合を推進しています。その理由は、日本の大学が、少子化を乗り越えて、国際水準の教育研究を展開していくということにあるようです。そこで、本学も県内の他の国立大学と協議を行っていますが、本学としては、医学と薬学を総合するという特色をさらに発展させ、より活力のある大学になるような再編・統合を目指したいと考えております。

医学部の継続的な課題の一つに卒業生の定着率の問題があります。一昨年から昨年にかけて、臨床実習に来る学生に「入局する教室を選ぶ基準について」アンケートをとりました。学生が挙げた目安の中で上位の5つは、①興味があるかどうか(自分がやりたいことと入局がやろうとしていることが合っているかなど) 61人、②医局の雰囲気(活気があるか、まとまりや和があるか、明るくて自由な雰囲気など) 54人、③研修システムが整っているかどうか 24人、④上司の先生の人柄(魅力のある先生がいるか、教授の人柄、尊敬できる先生がいるかなど) 20人、⑤自分のQOL 15人、⑥関連病院 12人でした。続いて、⑦患者数が多いこと 6人、⑧結婚、妊娠、出産、育児に対する配慮があるか 5人や、⑨将来性 5人が挙げられていました。

この結果を素直に解釈すれば、入局者を増やすためには、まず魅力と活気のある教室づくりがもっとも重要ということになりそうです。関連病院の問題は、しばしば指摘されていますが、実際には、関連病院長懇談会では医師派遣の要請が多すぎてそれに応えきれないのが実情であります。すでに、関連病院が多すぎてその対応に困っているという教室もいくつか存在しています。

さて、私が卒業生の諸君に要望したいことは、チャンスを十分にいかしていただきたいということです。そのためには、日頃の努力も必要です。卒業後、県内の基幹病院に赴任する機会、大学に残って勉学する機会、留学の機会などさまざまな機会があります。その際に、持てる力を最大限に発揮していただきたいと思っております。それが当人だけでなく、大学の発展につながると思います。また、同窓会としても、大学の発展に寄与する方法、とくに学生の勉学を支援する具体的な方法を考えていただければ大変幸いです。

皆様の益々のご活躍をお祈りしております。



独法化と再編・統合の渦の中にある医薬大病院

附属病院長 小林 正

現在、医薬大病院は、設立以来、最も重要な時期に遭遇しており、その舵取りには大きな責任を伴います。同窓会の方々には現在の状態を概説し御理解を願いたいと思います。

1) 独法化について

平成16年には国立大学が独立法人となり、各大学が大学改革の一環として、予算、組織、人事など経済面での諸規制が大幅に緩和され、大学の裁量が拡大する。しかし、第三者評価にもとづいた資金が国から投入され、競争原理にもとづく体制が要求される。また世界水準の教育研究や機動的、戦略的な大学運営が目標とされ、また必要となる。

文科省では過去18カ月程度に渡って検討委員会があり、小生も人事制度の委員会に出席したが、去年「中間報告」がまとまり、いよいよ今年3月の最終案を目指し、細部の検討がなされている。

本大学の病院も平成16年の法人化に向けて、現在構想委員会で検討中である。独法化での大学の設置者は国であり、構成する職員の身分は現在と同じ国家公務員となるのかあるいは非公務員型となるのか未だ決定していない。後者であれば、より柔軟な人事制度が可能となるなどの相違がある。各大学の経営には、学長の経営、教学の責任者として強いリーダー・シップの発揮が求められ、また経営手腕も重要とされる。運営・経営の成果は6年毎の中期目標、中期計画毎に評価され、国から資源が配分される。

再編・統合の問題は独法化を検討している去年6月頃に経済財政諮問会議を受けて急浮上したもので、文科省からは再編・統合は平成15年の10月を目標としたものとして努力することとの示唆があったが、現状ではそれ以降へと遅れる可能性もある。したがって独法化、統合再編は殆ど同時に取り組む問題としてとらえる必要が出てきた。

当大学附属病院の理念としては、①地域に根ざした地域の指導的役割を荷う最高医療機関としての医療、②医師、看護婦、薬剤師等の優れた人間性にあふれた、且つ、国際的視野を有する医療人の育成、③高度先進医療とその開発研究を行う医療機関として、産学官の連携を進展させ、新しい診断治療を目指す、④すぐれた経営戦略に基づく効率的且つ、積極的な運営と人間味あふれた医療が挙げられ、これに沿った構想を考えていく必要がある。県と密接な関係を持つこと、関連病院の充実、ガン治療部門や移植センターなどの設立などが当面の目標として挙げられ、人材の再配備が必要となる。また副病院長クラスには、経営の専門家を配し、積極的且つ多角的に経営戦略を練り、資源の配分も各科の稼働額、臨床研修医等の教育実績などに基づいたものにするなどが考えられる。さらに、大学病院が現在のように大学附属病院にするのか、医学部附属病院とするのかも検討する必要がある。また、平成19年迄に病棟の再整備(増築)を行い、6床部屋を無くす計画がある。

2) 大学統合再編について

県内の国立大学である富大、高岡短大と本大学の統合、再編に関しては、現在三大学で統合を目指した正式な協議に入るべく、現在懇談会での討議を続けている。しかし、正式な協議に入るための合意書に到達する前の〈表1〉の当大学が提出した基本的確認事項について現在、討議しているが、合意に到っていない。問題は3の管理体制についてであり、富山大はこれらの(3)、(5)、(6)について合意していない。また2の(1)についても、富山大学は賛意を表していない。富大は学部も多く、教官も多く、教育学部をどうするのか教養教育の問題もある。また医薬大と共同で新しい大学院を生命科学を中心とするものを立ち上げることが重要であり、これらについての検討を続けている。

この三大学の懇談会の司会をしていて、大学の体質、力量、姿勢などが異なり、その調整が非常に困難であることを感じた。引き続き、前向きに魅力ある新しい大学を構築すべく頑張るつもりである。

〈表1〉 富山県内国立大学の再編・統合にかかわる基本的確認事項(案)

1. 新しい大学の基本理念について

新しい大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化と人間社会の調和的発展に寄与する。

2. 教育研究においては、以下のことが重視されることが必要である。

- 1) 生命科学を中心に関連分野を融合した国際水準の大学院
- 2) 質の高い教養教育とそのための責任ある実施体制の確立
- 3) 時代・社会の要請に応える人材の育成とそのための学部・大学院編成
- 4) 地域産業との機能的連携、及び地域社会への知的サービスの提供

3. 1. の目的を達成するためには、次のような管理運営を基本とする。

- 1) 教育研究のあり方と社会的貢献に応じた教職員の配置
- 2) 教授、助教授、講師、助手などの教官の構成の適正化
- 3) 全教官の任期制の採用
- 4) 教育・研究・社会的貢献等に対する適切な評価
- 5) 評価に応じた給与体系
- 6) 評価に応じた人的、物的資源の配分と管理運営面への参加

平成14年 月 日

富山医科薬科大学長 富山大学長 高岡短期大学長

富山県内国立大学の再編・統合の推進に関する合意書(案)

富山県内に設置されている国立大学3機関、すなわち富山医科薬科大学、富山大学及び高岡短期大学は、相互の特色を尊重しつつ、再編・統合を推進し、新しい大学の創設に向けて協議を行うことに合意する。

平成14年 月 日

富山医科薬科大学長 富山大学長 高岡短期大学長

変わるもの変わらぬもの

または、昆布メ・桐朋・同窓生

会長 高田 良久

2001年11月3日、20年ぶりの一期生同窓会が富山全日空ホテルで開催された。

「別れた歳が歳だから、そうは変わらんまい」

A Tさんが言うように、顔ぶれを見てそれほど戸惑うことはない。それにしても生え際前線後退したな、KH、MA。「それ、自髪」とは失礼な、S K。童話出版おめでとう。ウチの子供に読ませてみたい。万年青年T T。当時「おっさん」と言われたT Iは貫禄がついて立派になった。T Mが心筋梗塞から生還し元気な姿を見せたのはめでたいめでたい。少女のようだったT (M) さんも今では立派なお母さん。お受験も頑張ったんだって……。

タイムマシンを使ったように、今と昔が重なった。幹事の皆さんありがとう。

20年の歳月で変わったこと、変わらないこと。

通いつめた富山駅前「あら川」や総曲輪「寿司栄」の賑わいは昔通り。変わらぬ昆布メの味が懐かしい。八十余歳を迎えてなお矍鑠たるT さんご夫妻の温かさも変わらない。

11月3日は開学6年目を迎える桐朋オーケストラアカデミーと東京本校の学生の合同演奏会。本公演は会と重なるので、所長の西原先生にお願いしてオーバードホールのリハーサルを聴かせていただいた。曲目はデュカの交響詩「魔法使いの弟子」、ブリテン「パーセルの主題による変奏曲とフーガ（青少年のための管弦楽入門）」、プロコフィエフの交響曲第7番「青春」。

清新な音楽を堪能。20年前はオーケストラコンサート自体少なく、同じ交響曲第7番でもベートーヴェンばかり聴かされたように思う。音楽環境の激変である。